

吉元諒君が Multis2015 で 優秀ポスター賞 (Distinction Award) を受賞

センターの兼任講座である物性物理化学研究室の博士後期課程 3 年の吉元諒君が、2015 年 7 月 6 日-10 日にポーランドのクラクフで行われた Multiscale Phenomena in Molecular Matter 2015 で優秀ポスター賞を受賞しました。本誌の会議レポートでも報告している通り、この会議は分子性物質の凝縮体化学に関する国際会議で、ヤゲロニアン大学の Janik 先生の Friendship ミーティングから発展したものです。クラクフの核物理研究所、ヤゲロニアン大学をはじめヨーロッパ各国から凝縮系の物理化学分野の研究者が集まった会議になりました。学生はポーランドの人が大半でしたが、日本や欧州各国からの参加者もおられ、参加者はほぼ全員、オーラル講演かポスター発表をしていたようです。ポスターセッションは 7 日の夕刻に行われ、分子磁性に関する発表と液晶等のソフトマターに関する発表が半々程度でしたが、数値シミュレーション、音に関する基礎理論などバラエティーに富んだものでした。吉元君は、博士課程の研究テーマとして取り組んでいる双極子モーメントをもったカチオンが絶縁層で方向を揃えて配列した電荷移動塩で生じる新規な磁気現象に関する熱測定と磁気測定結果を発表しました。Maria Balanda 先生、Tadeusz Wasiutyński 先生はじめ、分子磁性の分野では非常に有名なスペイン バレンシア大学の E. Coronado 先生など数多くの先生が興味をもってくれました。吉元君は、英語での発表は過去に Calorimetry Conference や国内の会議でも何度か経験があり、また毎年、夏休みに研究室に来るイギリスからの留学生と非常に仲良くしていることから、英語でのコミュニケーションや発表に殆ど抵抗がないようです。質問にも的確に答えていたとのことで、この評価になったようです。懇親会の席で、ポスターセッション担当の Piotr Zieliński 先生から発表があり、本人もびっくりでしたが、下記の賞状と副賞を頂きました。ポスターでも高圧実験にチャレンジしていることに期待の声がありましたが、帰国後、かなり詳細なデータを取りながら磁気現象の圧力効果を調べ、現在、学位論文にむけて奮闘しています。センターの兼任教授でもある高分子科学専攻の佐藤尚弘先生の研究室におられた川田さんが現在、筑波大学の社会人ドクターでソフトマターの研究をされています。川田さんも会議に参加されており、同様に優秀ポスター賞に選出されました。1 年前に理学部の学部生のキャリアパス教育として行っている将来展望ワークショップに来て頂き、社会人博士の立場から講演して頂いたこともあり現地でお会いしたことに驚きましたが、受賞のお祝いをお伝えしました。

(中澤康浩)



ポスター賞の表彰状



記念撮影